

少年ソフトボール大会

1 参加資格

旭区内在住の小学生男子。ただし、3名以内に限り、女子を参加させることができる。

2 チーム編成

- (1) 1チームは、監督1名、コーチ2名、スコアラー1名、選手20名以内とする。ただし、スコアラーは置かなくてもよい。
- (2) 監督、コーチは成人とし、「旭区に在住または在勤」とする。また、選手についてはチームを編成する地区内に居住する小学生男子および女子とする。ただし、同じ小学校に通学し、他地区に居住する小学生男子および女子については、3名まで選手として登録することができるが、投手または捕手として参加することはできない。
- (3) 地区代表チームは、地区大会の優勝チームとする。

3 地区大会日程

地区大会は、令和元年7月22日までに行うものとする。

4 試合方法

- (1) 塁間は、16.76メートルとする。また、投手板と本塁間は10.67メートルとする。
試合球は、検定2号ボールとする。試合球は、主催者が用意する。
- (2) 試合は、トーナメント方式で行う。
- (3) 1試合は、7回とする。ただし、3回15点、4回10点、5回以降7点以上の差が生じた場合は、得点差コールドゲームとする。また、試合開始後1時間を超えた場合は次の回には入らないものとする。
- (4) 7回を終えた時点で同点の場合は、抽選により勝敗を決定する。(決勝戦については、8回からタイブレーカーにより試合を継続する。)
※「タイブレーカー」とは、無死・走者二塁を設定して試合を継続する方法で、二塁の走者は前回の最後に打撃を完了したものとし、打者は前回から引き続く正位打者(正しい打順の打者)とする。ただし、時間内タイブレーカーであり、試合時間を過ぎている場合は、抽選とする。
- (5) ファールボールは、各ベンチの側のチームが拾って本部に手渡すことを原則とする。
- (6) 一塁コーチおよび三塁コーチには登録された監督、コーチ、選手があたる。
- (7) 本大会は、本要項及び日本ソフトボール協会オフィシャルルールにより実施する。

5 参加上の注意

- (1) 選手および監督は必ずユニフォームを着用し、胸部に地区名(半紙半裁大)、背部に番号をそれぞれ示さなければならない。(ユニフォームに地区名が入っているものでも可)
番号は、監督が30番、コーチが31番・32番、主将が10番、選手が1~99番とする。
- (2) 選手は、必ず帽子を着用しなければならない。靴は、運動靴またはスパイク(金属製のスパイクは使用禁止)を着用しなければならない。
- (3) 捕手は、捕手用ヘルメット、スロートガード付きマスク、プロテクター、レガースを着用しなければならない。
- (4) 打者、打者走者、走者、コーチアボックスに入る者は、ヘルメットを着用しなければならない。
- (5) 審判の判定に対しての抗議は、監督だけが行うことができる。
- (6) 打ち合わせは、攻撃側1イニングに1回、守備側1回~7回の間(8回以降は1イニング中一度)に限り行うことができる。
水分補給は充分に行い、監督・コーチは選手の体調を管理する。その為に試合中タイムをとり、選手の体調を尋ねる時は、打ち合わせとしない【旭区民スポーツ祭ルール】

少女ミニ・バスケットボール大会

1 参加資格

旭区内在住の小学生女子。

2 チーム編成

- (1) 1チームは、監督1名、コーチ2名、スコアラー1名、選手7名以上20名以内とする。
- (2) 監督、コーチは成人とし、「旭区に在住または在勤」とする。また、選手についてはチームを編成する地区内に居住する小学生女子とする。ただし、同じ小学校に通学し、他地区に居住する小学生女子については、3名まで選手として登録することができる。
- (3) (2)但書きの選手が3名を上回るチームに関しても、オープン参加として認める。1回戦を実施するが、敗退として扱う（当該チーム戦の相手は敗戦でも勝ちあがる）。オープン参加したチームには、参加点を与えない。
- (4) 地区代表チームは、地区大会の優勝チームとする。

3 地区大会日程

地区大会は、令和元年7月22日までにを行うものとする。

4 試合方法

試合の方法およびルールについては、本要項および、旭区ミニ・バスケットボール競技規則・審判規定に準ずる。

5 参加上の注意

- (1) 選手はチームで統一されたユニフォームを着用し、背部に番号（4番からの連番で選手に割り振られたもの）をそれぞれ示さなければならない。
- (2) 選手は室内運動靴を着用しなければならない。

少年野球大会

1 参加資格

旭区内の中学生男子。ただし、3名以内で小学6年生または中学生女子を参加させることができる。

2 チーム編成

- (1) 1チームは、監督1名、コーチ1名、選手20名以内とする。
- (2) 監督、コーチは成人とし、「旭区に在住または在勤」とする。また、選手についてはチームを編成する地区内に居住する中学生男子とする。ただし、同じ中学校に通学し、他地区に居住する中学生男子については、3名まで選手として登録することができるが、投手または捕手として参加することはできない。
- (3) 地区代表チームは、地区大会の優勝チームとする。

3 地区大会日程

地区大会は、令和元年7月22日までに行うものとする。

4 試合方法

- (1) 塁間は、27.43メートルとする。また、投手板と本塁間は18.44メートルとする。
- (2) 試合球は、軟式公認球M号ボールとする。試合球は、主催者が用意する。
- (3) 試合は、トーナメント方式で行う。
- (4) 1試合は7イニングとする。ただし、第5イニング以降において7点以上の得点差がある場合は、コールドゲームとする。また、試合開始後1時間20分を超えた場合は次のイニングには入らないものとする。
- (5) 第7イニングを終えた時点で同点の場合は、抽選により勝敗を決定する。(決勝戦については、第9イニングまで延長戦を行うものとする。また、第9イニングを終えてなお同点の場合は、第10イニングからタイブレークにより試合を継続する。)
※ 「タイブレーク」とは、一死走者二・三塁を設定して試合を継続する方法で、二・三塁の走者は前のイニングの最後に打撃を完了したものとし、打者は、前のイニングから引き続く正位打者(正しい打順の打者)とする。【旭区民スポーツ祭ルール】
- (6) ファールボールは、各ベンチの側のチームが拾って本部に手渡すことを原則とする。
- (7) 本大会は、本要項及び全日本軟式野球連盟規則により実施する。

5 参加上の注意

- (1) 選手および監督は必ずユニフォームを着用し、胸部に地区名(半紙半裁大)、背部に番号をそれぞれ示さなければならない。(ユニフォームに地区名が入っているものでも可)
- (2) 選手は、必ず帽子を着用しなければならない。なお、靴は運動靴またはスパイク(金属製のスパイクは使用禁止)を着用しなければならない。
- (3) 捕手は、ヘルメットおよびキャッチャーマスクを着用しなければならない。なお、レガースは着用することが望ましい。
- (4) 打者、打者走者、走者、コーチャーズボックスに入る者は、ヘルメットを着用しなければならない。
- (5) 審判の判定に対しての質問は、監督だけが行うことができる。

三 世 代 輪 投 げ 大 会

1 参加資格

旭区在住で、令和元年8月4日時点で①小学生以上20歳未満の者、②20歳以上60歳未満の者、③60歳以上の者とし、他の世代のグループには入れない。

2 チーム編成

- (1) 1チームは、各世代からそれぞれ3名を選出した合計9名で構成する。
- (2) 選手の登録は、18人以内とする。
- (3) 選手の男女別は問わない。
- (4) 監督は選手を兼ねることができるが、選手登録の18人を超えてはならない。
- (5) 代表チームは地区大会の優勝チームとする。

3 地区大会日程

地区大会は、令和元年7月22日までに行うものとする。

4 試合方法

- (1) 本大会は、予選・決勝に分け、予選をリーグ戦、決勝をトーナメント戦とする。
- (2) 予選は、4組に分け総当たりのリーグ戦とし、各組の1位・2位が決勝トーナメントへ進出する。
- (3) 投げる回数は1人2回とし、1回につき9本の輪を連続して投げる。
- (4) 片方のチームの選手1人が1回目の投輪を終えた後、もう片方のチームの選手1人が1回目の投輪を行う（交互にこれを繰り返す）。
- (5) 各チームにおいて輪を投げる順番は、①小学生以上20歳未満の者、②20歳以上60歳未満の者、③60歳以上の者とし、各世代の選手が一人ずつ交代で投げるものとする。
- (6) 勝敗は2回の得点数の合計により決定する。
同点の場合は、1回目の得点が多いチームを勝ちとする。
さらに同点の場合は、9人のくじにより決定する。
- (7) 輪を投げる位置はスローイングラインからとする。
スローイングラインは、各世代とも輪投げ台の最前部から3メートルとする。
- (8) このスローイングラインを超えて投げた点数は無効とする。また、スローイングの際は両足を地面（床）に着けていなければならない。
- (9) 得点は、1人連続9本の輪を投げ、9本の的棒の下に表示されている数字の合計とする。
ただし、縦・横・斜めに3つ並んで入った場合は、1列につき5点加算する。
また、的棒全部に入った場合は、100点とする。
- (10) リーグ戦の順位については、下記のア～ウの内容で決定する。
ア チームの勝数が多い。
イ アが同じ場合合計得点数が多い。
ウ ア、イが同じ場合抽選により決定する。

5 参加上の注意

- (1) 監督は、競技者の健康に十分留意して大会中の傷病防止に万全の配慮をしなければならない。
- (2) 選手は、胸部に地区名（半紙半裁大）を示さなければならない。
- (3) 選手は、室内用運動靴を着用しなければならない。
- (4) 審判の判定に対しての質問は、監督だけが行うことができる。

成人男子ソフトボール大会

1 参加資格

旭区内在住で、令和元年9月8日時点で40歳以上の男子

2 チーム編成

- (1) 1チームは、監督1名、コーチ2名、選手20名以内とする。
- (2) 監督およびコーチは選手を兼ねることができるが、選手登録の20名を超えてはならない。
- (3) 地区代表チームは、地区大会の優勝チームとする。

3 地区大会日程

地区大会は、令和元年8月26日までに行うものとする。

4 試合方法

- (1) 塁間は、18.29メートルとする。また、投手板と本塁間は、14.02メートルとする。
試合球は、検定3号ボールとする。試合球は、主催者が用意する。
- (2) 試合は、トーナメント方式で行う。
- (3) 1試合は7回とする。ただし、3回15点、4回10点、5回以降7点以上の差が生じた場合は、得点差コールドゲームとする。また、試合開始後1時間を超えた場合は次の回には入らないものとする。
- (4) 7回を終えた時点で同点の場合は、抽選により勝敗を決定する。(決勝戦については、8回からタイブレーカーにより試合を継続する。)
※「タイブレーカー」とは、無死・走者二塁を設定して試合を継続する方法で、二塁の走者は前回の最後に打撃を完了したものとし、打者は前回から引き続く正位打者(正しい打順の打者)とする。ただし、時間内タイブレーカーであり、試合時間を過ぎている場合は、抽選とする。
- (5) ファールボールは、各ベンチの側のチームが拾って本部に手渡すことを原則とする。
- (6) 一塁コーチおよび三塁コーチには登録された監督、コーチ、選手があたる。
- (7) 本大会は、本要項及び日本ソフトボール協会規則オフィシャルルールにより実施する。

5 参加上の注意

- (1) 選手および監督は必ずユニフォームを着用し、胸部に地区名(半紙半裁大)、背部に番号をそれぞれ示さなければならない。(ユニフォームに地区名が入っているものでも可)
番号は、監督が30番、コーチが31番・32番、主将が10番、選手が1～99番とする。
- (2) 選手は、必ず帽子を着用しなければならない。靴は、運動靴またはスパイク(金属製のスパイクは使用禁止)を着用しなければならない。
- (3) 捕手は、捕手用ヘルメット、スロートガード付きマスク、プロテクター、レガースを着用しなければならない。
- (4) 打者、打者走者、走者、コーチャーズボックスに入る者は、ヘルメットを着用しなければならない。
- (5) 審判の判定に対しての抗議は、監督だけが行うことができる。
- (6) 打ち合わせは、攻撃側1イニングに1回、守備側1回～7回の間(8回以降は1イニング中一度)に限り行うことができる。
水分補給は充分に行い、監督・コーチは選手の体調を管理する。その為に試合中タイムをとり、選手の体調を尋ねる時は、打ち合わせとしない【旭区民スポーツ祭ルール】

成人女子ソフトボール大会

1 参加資格

旭区内在住で、令和元年9月8日時点で20歳以上の女子

2 チーム編成

- (1) 1チームは、監督1名、コーチ2名、選手20名以内とする。
- (2) 監督およびコーチは選手を兼ねることができるが、選手登録の20名を超えてはならない。
- (3) ピッチャーの年齢は40歳以上とする。
- (4) 地区代表チームは、地区大会の優勝チームとする。

3 地区大会日程

地区大会は、令和元年8月26日までに行うものとする。

4 試合方法

- (1) 投球距離は12.19メートルとする。【旭区民スポーツ祭ルール】
試合球は、検定3号ボールとする。試合球は、主催者が用意する。
- (2) 試合は、トーナメント方式で行う。
- (3) 1試合は7回とする。ただし、3回15点、4回10点、5回以降7点以上の差が生じた場合は、得点差コールドゲームとする。また、試合開始後1時間を超えた場合は次の回には入らないものとする。
- (4) 7回を終えた時点で同点の場合は、抽選により勝敗を決定する。(決勝戦については、8回からタイブレーカーにより試合を継続する。)
※「タイブレーカー」とは、無死・走者二塁を設定して試合を継続する方法で、二塁の走者は前回の最後に打撃を完了したものとし、打者は前回から引き続く正位打者(正しい打順の打者)とする。ただし、時間内タイブレーカーであり、試合時間を過ぎている場合は、抽選とする。
- (5) ファールボールは、各ベンチの側のチームが拾って本部に手渡すことを原則とする。
- (6) 一塁コーチおよび三塁コーチには登録された監督、コーチ、選手があたる。
- (7) 本大会は、本要項及び日本ソフトボール協会規則オフィシャルルールにより実施する。

5 参加上の注意

- (1) 選手および監督は必ずユニフォームを着用し、胸部に地区名(半紙半裁大)、背部に番号をそれぞれ示さなければならない。(ユニフォームに地区名が入っているものでも可)
番号は、監督が30番、コーチが31番・32番、主将が10番、選手が1~99番とする。
- (2) 靴は、運動靴またはスパイク(金属製のスパイクは使用禁止)を着用しなければならない。
- (3) 捕手は、捕手用ヘルメット、スロートガード付きマスク、プロテクター、レガースを着用しなければならない。
- (4) 打者、打者走者、走者、コーチャーズボックスに入る者は、ヘルメットを着用しなければならない。
- (5) 審判の判定に対しての抗議は、監督だけが行うことができる。
- (6) 打ち合わせは、攻撃側1イニングに1回、守備側1回~7回の間(三度(8回以降は1イニング中一度)に限り行うことができる。
水分補給は充分に行い、監督・コーチは選手の体調を管理する。その為に試合中タイムをとり、選手の体調を尋ねる時は、打ち合わせとしない【旭区民スポーツ祭ルール】

グラウンド・ゴルフ大会

1 参加資格

旭区内在住の者。

2 チーム編成

- (1) 1チームは監督1名、選手5名以上10名以内とする。
- (2) 試合は1チーム5名で行う。
- (3) 監督は選手を兼ねることができるが、選手登録の10名を越えてはならない。
- (4) 選手の男女、年齢は問わない。
- (5) 代表チームは地区大会の優勝チームとする。

3 地区大会日程

地区大会は、令和元年8月26日までに行うものとする。

4 試合方法

- (1) 本大会は予選・決勝に分ける。
- (2) 予選は、チームを4組に分け、各組の1位、2位が決勝へ進出する。
- (3) 試合方法はチーム戦とし、コースを1回（8ホール）まわることとする。
- (4) 予選および決勝戦の順位については下記のア～エの内容で決定する。
 - ア チーム内の全プレーヤーの総打数を合計して、合計打数の少ないチームを勝ちとする。
 - イ アが同じ場合は、最小合計打数者の多いチームを勝ちとする。
 - ウ ア、イが同じ場合は、ホールインワンが多いチームの勝ちとする。
 - エ ア、イ、ウが同じ場合は抽選により決定する。
- (5) スタートするホールは、主催者の一任とする。
- (6) 打順については、ホールポストごとに1ホール目は1番、2ホール目以降は2番からと順番を替えて打つ。
- (7) 本大会は、本要項及び日本グラウンド・ゴルフ協会規則により実施する。

5 参加上の注意

- (1) 監督および選手は健康に十分留意して大会中の傷病防止に万全の配慮をしなければならない。
- (2) 選手は、胸部に地区名（半紙半裁大）を示さなければならない。
- (3) 原則、選手が試合途中で交代することはできない。しかし、傷病等のやむをえない場合のみ、途中で交代することができる。

成人女子バレーボール大会

1 参加資格

旭区内在住で、令和元年 11 月 3 日時点で 20 歳以上の女子

2 チーム編成

- (1) 1 チームは、監督 1 名を含めて 15 名以内とする。なお、参加資格を満たす女性が監督の場合は選手を兼ねることができる。
- (2) 地区代表チームは、地区大会の優勝チームとする。

3 地区大会日程

地区大会は、令和元年 10 月 22 日までに行うものとする。

4 試合方法

- (1) 試合は 3 セット・マッチ、ラリーポイント制とする。
- (2) 各セットは 21 点を先に取ったチームの勝ちとする。
- (3) 20 点 — 20 点になった場合はジュースとし、どちらかが 2 点リードするまで試合を続ける。
- (4) チェンジ・コートは、セット終了毎に行う。最終セットでは、どちらかのチームが 11 点を先取したときにもチェンジ・コートを行う。
- (5) ネットの高さは 2.05m とする。
- (6) 試合球は、4 号ボールとする。試合球は主催者が用意する。
- (7) 選手の交代は、1 セットにつき 3 回まで、1 回につき 3 名以内とする。
- (8) 本大会は、本要項及び日本バレーボール協会 9 人制競技規則により実施する。

5 参加上の注意

- (1) 選手は、胸部に地区名及び番号（半紙半裁大）、背部に番号をそれぞれ示さなければならない。（ユニフォームに地区名が入っているものでも可）
- (2) 選手は室内用運動靴を着用しなければならない。
- (3) 審判の判定に対しての質問は主将だけが行うことができる。

成人男子インディアカ大会

1 参加資格

旭区内在住で、令和元年11月3日時点で35歳以上の男子

2 チーム編成

- (1) 1チームは、監督1名、選手4名以上10名以内とする。監督は選手を兼ねることができるが、選手登録の10名を越えてはならない。
- (2) 地区代表チームは、地区大会の優勝チームとする。

3 地区大会日程

地区大会は、令和元年10月22日までに行うものとする。

4 試合方法

- (1) 競技は4人制で行う。
- (2) 競技はラリーポイント制で行う。
- (3) 競技は3セットで行い、2セットを先取したチームを勝ちとする。
- (4) 各セットは21点を先に取ったチームを勝ちとする。
- (5) 20点ー20点になった場合には、ジュースとし、どちらかが2点リードするまで試合を続ける。
- (6) チェンジ・コートはセット終了毎に行う。ただし、最終セットで、どちらかのチームが11点を先取したときにも、チェンジ・コートを行う。
- (7) コートは、バドミントンのシングルス・ダブルス兼用コートの外側ラインを使用する。ネットの高さは、2.15mとする。
- (8) 本大会は、本要項及び横浜市インディアカ協会競技規則により実施する。

5 参加上の注意

- (1) 選手及び監督は、胸部に地区名（半紙半裁大）、背部に番号をそれぞれ示さなければならない。（ユニフォームに地区名が入っているものでも可）
- (2) 選手は室内用運動靴を着用しなければならない。
- (3) 審判の判定に対しての質問は、監督だけが行うことができる。

成人男女卓球大会

1 参加資格

旭区内在住で、令和元年 11 月 3 日時点で 30 歳以上の男子及び 25 歳以上の女子

2 チーム編成

- (1) 1 チームは、監督 1 名を含めて 20 名以内とする。なお、参加資格を満たす者が、監督の場合は、選手を兼ねることができる。
- (2) 選手の男女内訳は、男子 10 名以内、女子 10 名以内とする。
- (3) 地区代表チームは、地区大会の優勝チームとする。

3 地区大会日程

地区大会は、令和元年 10 月 22 日までに行うものとする。

4 試合方法

- (1) 本大会は、予選・決勝にわけ、予選をリーグ戦、決勝をトーナメント戦とする。
- (2) 予選は、4 組に分け総当たりのリーグ戦とし、各組の 1 位・2 位が決勝トーナメントへ進出する。
- (3) 試合形式は以下のとおりとする。参加は、1 名につき 1 試合に限るものとする。
第 1 試合 — 混合ダブルス
第 2 試合 — 女子ダブルス
第 3 試合 — 混合ダブルス
第 4 試合 — 男子ダブルス
第 5 試合 — 混合ダブルス
- (4) 試合開始時に、男女 5 名以上の選手が揃っていなければ失格とする。
- (5) 予選リーグは、1 試合を 11 点ゲーム、3 セット先取とする。
- (6) 予選リーグは、各試合とも、第 1 試合～第 5 試合のすべてを行う。
- (7) 予選リーグの順位は、下記ア～エの内容で決定する。
ア チームの勝ち数が多い。
イ アが同じ場合、全試合の勝率。
ウ ア、イが同じ場合、当該チーム同士の勝者
エ ア～ウのすべて同じ場合は、抽選により決定するものとする。
- (8) 試合球は公式ボールを使用する。試合球は主催者が用意する。
- (9) 決勝トーナメントは、1 試合を 11 点ゲーム、3 セット先取とする。

5 参加上の注意

- (1) 選手は、背部に地区名（半紙半裁大）及び姓を示さなければならない。
（ユニフォームに地区名が入っているものでも可）
- (2) 選手は室内用運動靴を着用しなければならない。
- (3) 審判の判定に対しての質問は、監督だけが行うことができる。

高齢者ゲートボール大会

1 参加資格

旭区内在住で、令和元年 11 月 3 日時点で 60 歳以上の者

2 チーム編成

- (1) 1 チームは、監督 1 名、選手 5 名以上 10 名以内とする。
- (2) 監督が選手を兼ねることはできない。ただし監督は置かなくてもよい。
- (3) 選手の内 1 名を主将とする。
- (4) 地区代表チームは、地区大会の優勝チームとする。

3 地区大会日程

地区大会は、令和元年 10 月 22 日までに行うものとする。

4 試合方法

- (1) 試合球は主催者が用意する。
- (2) 本大会は、本要項および日本ゲートボール連合競技規則により実施する。
- (3) 本大会は予選と決勝に分けて行い、予選はリーグ戦、決勝はトーナメント方式で行う。

5 参加上の注意

- (1) 監督および主将は、選手の健康に十分留意して、大会中の傷病の防止に万全の配慮をしなければならない。
- (2) 選手は、打撃順の番号を胸部および背部に、地区名を胸部にそれぞれ着けなければならない。地区名は番号の下につけるものとする。
- (3) 審判の判定に対しての質問は、主将だけが行うことができる。